

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	【施設名称】
	ボイル乾燥飼料製造プラント
	【事業主体】
	横浜市有機リサイクル協同組合
	【所在地】
	神奈川県横浜市金沢区
	【運転開始年】
	平成 13 年
原材料および利用量	生ごみ（発生量：10t/日）
生産物（種類）	飼料：60～70t/月
利用方法	横浜市内及び千葉県1市、2町の養豚農家
導入目的・経緯	食品リサイクル法で外食産業など食品関連事業者から排出される食品廃棄物等の再生利用等が義務づけられた。これを受け、横浜市近隣の食品関連業者から排出される食品廃棄物や市内の小学校の給食の残さを集め、良質な飼料にリサイクルし、養豚農家に供給している。
設備仕様	サイクロンドライヤー、冷却機、脱脂機、加熱、殺菌機、破碎機・振動フルイ機、脱臭装置 施設処理能力：18t/日
稼働状況	364日/年
経済性関連データ	施設整備費 3億5千万円
導入効果	これまでの2年間の製造実績により、食品廃棄物の飼料化に関するノウハウは確立した。地域から出る食品廃棄物の減量に貢献すると共に、生ごみを飼料として再生利用し、良質な豚肉生産に役立て、養豚農家に喜ばれている。
運営上の課題	生ゴミボイル乾燥飼料化プラントをより効率的に稼働させるために、県下に3ヶ所、県外に2～3ヶ所程度の乾燥機を設置し、より多くの生ごみの処理に取り組んでいきたい。また、食品未利用資源循環型社会構築事業として、この飼料で肥育した豚肉のトレーサビリティを構築し、安心して良質な豚肉の生産から流通までのシステムを作ることにも取り組んでいく。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例